

# 人権教育指導者育成講座のまとめ 平成21. 9. 1 7月29日参加のみなさまへ 泉南市教育委員会

## 自分自身の姿を知る～「認知」「評価」「行動」の三位一体～ ロールプレイを通して、現実の場面に対応できる力をつける！ 松原市立松原第七中学校の人間関係学科(HRS)のとらえかた

7月29日(木)、松原第七中学校の深美隆司さん、曾和幸子さん、高橋俊也さん、山本啓子さん、川口剛史さん、井上亨子さんの6名に来ていただき、「出張ファシリテーション」ということで、人間関係学科(HRS)の考え方と実際にそこで行っている取り組みについて紹介していただきました。様々な年代の先生方がチームを組んで、ロールプレイやワークショップのファシリテーターをやっていただくことで、取り組みのモデルを具体的に示してもらうことができたと共に、教職員の集団づくりの大切さも学ばせていただきました。(ちなみにこの日は、松原七中の校長先生も「参観」しておられました。)

### 「認知」～自分が何者であるか知ること！

初めに、今回の研修が掲載されている「松原七中校区研究開発」のHPの一部を紹介したい。

...まず、「これなあに。」ということで、写真を見てもらいました。碁石に見えたり、石けんに見えたりするコンビニでもらえる白いスプーン。つついコーヒーが入ったコーヒーカップに見えてしまうトイレットペーパー。平行に引かれている直線が、どうしてもガタガタに曲がっている線に見えてしまう絵、など、人間は、往々にして思い込みや錯覚による間違いをおかします。特に思い込みは、子どもたちの発達を阻害してしまうのです。自己開示することで数多くのプラスのフィードバックをまわりからもらい、自分自身の姿を知るという「認知」。あえて、ロールプレイングを通じて、望ましい在り方を考え「行動」することで、好ましい感じ方ができるようになるというプロセス。それを積み上げていくことで、「評価(感じ方)の仕方が徐々に好ましく変わっていくことを、また、自分で「認知」するという、「認知」「評価」「行動」の三位一体が、人間関係学科のコアであることをお話しました。



ある学校の集団づくりの研修に参加した時、子どものことで悩んでいることについて、先生方一人ひとりから相談を受ける場面があった。もちろん、それに一つずつ答えることはできなかった。が、一つだけ先生たちに返したことがある。「今、先生たちが語った子どもの実態について、子ども本人は『自分がそうである』と自覚していますか。」

今回の研修で松原七中の深美さんは次のように語られた。「人は自分一人では自分が何者であるかはわからない。人の中にいて、まわりを鏡にして、自分自身のことがわかっていく」

厳しい時代を生き抜く子らに、厳しい状況だからこそ、自分や自分のくらしから目を背けず、む

きあって、生きる力をつけていきたい。そのために、他者と生活する中で自分は何者であるかを知ること。その上で、自分がどうしていくか、自分で選び、決めること。そのことを可能にするためにも、ここで語られている「認知」「評価」「行動」の三位一体の考え方が必要だと感じた。

### ロールプレイでアサーティブな行動力を！

これまでの人権教育・同和教育の課題は、具体的な場面で行動できる力を子どもたちにつけてきたか、という点にある。今回の研修では、アサーティブな行動力（さわやかな自己表現）として、実際の場面で「自分も相手も大切に自分の言いたいことを伝える」力をつけるために、ロールプレイを通して考える実践例を提示してもらった。

このロールプレイが案外、実際の生活のなかで生きる、と深美さんは言う。ロールプレイを見て、感じたことを出し合いながら、子ども達が「では、どうすればよかったのか」を、「くりかえす」「共感する」「選択する」「主張する」の4段階の技法をもとに、自分たちなりの望ましいあり方を考えていく。望ましいあり方を見本として具現化した経験、それをロールプレイでやってみて「気持ちよかった」経験が、「実際の場面では自分ほしくない」と思っている、望ましい方向にいかうと努力する態度を生み出していく。ロールプレイで考えた望ましいあり方の3割でもできるようになれば、行動力はついていく、と深美さんは言う。

### ストレスに対処できる力がついてきた！

当然、松原七中にも厳しい実態をかかえた子ども達がいる。研究の始めた当初は、そのような子ども達が多かったのも事実だそう。そこで初めに取り組んだのが、「ストレス対処法」だという。

研修の最後に担任の先生方に子どもの様子を語ってもらったが、今では、厳しい実態の子どもも自主的にクールダウンや気持ちのコントロール等ができる力がついてきていることがわかった。

週1回、年間35時間の人間関係学科のとりくみは、ていねいな教材研究、教具づくりに加えて、

子どもたち一人ひとり（の考え）を大事にしていく教師の姿勢が効果を生み出していると感じた。それは今回、ファシリテーターをしてくれた先生方の意見の拾いあげや全体への返し方、そのことを通しての雰囲気づくりにも現れていた。さらに、教職員集団が一つになって推進していこうとしている姿勢。これらは今回の研修の参加者のほとんどすべてが感じた感想ではないだろうか。

### お知らせ～ワークのデータとHPの掲載

今回の研修で行われたワーク（ロールプレイ脚本やさいころトークを含む）に関する多くのデータ、またHRSのいくつかの教材指導案のデータを松原七中から頂いています。参考にされたい方は人権教育課：酒井までお問い合わせください。

今回の泉南市人権教育指導者育成講座のくわしい内容については「松原七中校区研究開発」のHPに載っています。研修の内容を振り返りたい方、知りたい方は、ぜひ、そちらをご覧ください。

### 参加者の感想から

子どもと一緒に考えることで「できるんだ」相手のことを考えながら自分のことを主張するアサーティブなコミュニケーションは大変難しいと思っていました。自分が苦手なので…。でも今日のロールプレイングを見て、子どもと一緒に考えることで「できるんだ」ということが、何となくわかったような気がしました。（小）

### 思い込みや見方を変えて見ていく大切さ

思い込みや見方（角度）を変えて見ていくということが大切ですね。毎日ちょっとした変化のある子どもに気づいていく、目をむけていくようにしたいです。（小）

何より自分が楽しんで一緒に学んでいきたい講師をして下さった方、全員がすごく生き生きとした表情でとてもすばしかったです。やはり教師という仕事としてつらいことの方が多く、悩むことも多いですが、今日のお話やワークをしていて心のふれあいは生徒だけでなく教師も大切なこと、そして何より自分が楽しんで一緒に学んでいかななくてはいけないと感じました。（中）